

令和5年度学校評価(教育活動診断)



11月中旬に実施した「教育活動診断票(アンケート調査)」へのご協力、ありがとうございました。今年度も生徒と保護者の両者に協力していただきました。1月22日に「学校関係者評価委員会」を開催し、5名の委員の方とアンケートの分析※を行いました。調査結果から見た傾向や特徴は次のとおりです。

※ 分析は、教育活動診断アンケートの4段階の評価のうち、主としてA(よくあてはまる)、B(ややあてはまる)の評価を合わせた数値を基に行いました。

全般的な傾向・特徴

コロナ禍が明け、数値に変化が

○ 新型コロナウイルス感染症が5月より第5類に移行したことで、3年以上にわたる教育活動への制限がほぼ撤廃され、学校の行事もコロナ前の状態に戻ってきました。その結果、行事に関する問いについて、生徒も保護者も数値が大幅に上昇しました。体育大会における縦割り活動や全校ダンス「ライジングサン」、幸中祭(文化祭)における文化的な発表や学級合唱、全校合唱「輝くために」など、全校が「みんなで」力を合わせて一つのものをつくり上げる活動に対して、好意的な評価をいただいたものと考えられます。



体育大会「天井団」の縦割り演舞

しかし、コロナ禍による生徒への影響は大きいと感じます。生徒の大半は、授業中もマスクを着用しています。また、授業におけるかかわり合いの場面や学級内での人間関係づくりがうまくいっていないと感じる場面が見られます。生徒向けのアンケートにおいても、問11「自分が困ったり悩んだりしたとき、相談できる友達がいる」問12「困ったり悩んだりしたとき相談できる先生がいる」問14「授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している」において、数値が下がっています。仲間や周囲の大人に対して、なかなか自分の心を開けない中学生の姿が浮かび上がります。本年度から、「構成的グループエンカウンター」を取り入れ、人間関係づくりを目的と



構成的グループエンカウンターの一コマ

した活動を月一回程度行っていますが、一朝一夕に成果が出るものではないことを痛感しています。今後もより円滑な人間関係が築けるよう、継続して取り組んでいきます。

○ 本年度、生徒の数値が上昇したのは、「あいさつや返事がしっかりできている」「通学路や交通ルールを守って登下校している」「机・ロッカー等、整理整頓に心がけている」「掃除は無言清掃を心がけ、真剣に取り組んでいる」「学級の係活動に積極的に取り組んでいる」「全校ダンスや合唱に積極的に取り組んでいる」「学習内容が理解できている」「ノートや課題、作品などの提出物をきちんと提出している」「学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」「学校生活や進路について家の人と話している」の10項目、設問の半分に上りました。それだけ、本年度の教育活動が、生徒にとって充実したものであったと言えるでしょう。



3年生学年合唱「言葉にすれば」

○ アンケートには、生徒と保護者が関連している設問があります。例えば、生徒向けの「学校行事(体育大会・文化祭等)に積極的に参加している」と、保護者向けの「お子さんは、体育大会や文化祭などの学校行事を楽しみにし、積極的に参加している」は、ともに高い数値(生徒91.5%、昨年度比+3.2% 保護者85.0%、昨年度比+6%)を示しています。一方で、生徒向け「自分が困ったり悩んだりしたとき、相談できる友達がいる」と、保護者向け「お子さんは、学校に信頼できる友達がいると言っている」という設問では、生徒が79.8%、昨年度比-5.1%だったのに対し、保護者は91.6%、昨年度比+5.8%となっており、隔たりが見られます。また、情報モラルに関する設問では、生徒の91.6%がルールを守って使っていると回答しているのに対し、保護者が、お子さんがルールを守って使っていると回答した割合は69.3%しかなく、双方の認識に大きなずれがあるのが分かります。情報機器を持っている以上、トラブルは常に隣り合わせです。情報機器を正しく、便利に使うことができるようご家庭で話し合っただけだとよいのではないかと考えます。



1年生が大健闘! 新春駅伝大会



晴天に恵まれた2年生スキー学習会



＊ ＊ 顕彰記録 ＊ ＊

《第57回町民スポーツ大会》

- 弓道 中学男子の部
 - 4位・技能優秀賞
 - 5位
- 弓道 中学女子の部
 - 優勝
- 卓球 一般男子B 個人の部
 - 2位
 - 3位



《第73回社会を明るくする運動
作文コンテスト》

優秀賞
佳作

《人権作品コンクール 標語の部》

入選

《岡崎市民新人総合体育大会》

- 弓道 団体の部 優勝
- 個人の部 3位

《JA共済小・中学生交通安全
ポスターコンクール》

佳作

《第76回赤い羽根協賛児童生徒
作品コンクール》

- 書道の部
 - 会長賞
 - 佳作
- ポスターの部
 - 佳作



《第42回全国中学人権作文コンテスト
岡崎地区大会》

奨励賞

《文詩集みかわの子》

- 特選
- 入選

《幸田町小中学生読書ゆうびんコンテスト》

- 優秀賞
- 入選

《第34回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞》

佳作

能登半島地震災害義援金

合計 113,651円

さる1月25日(木)に、幸田町教育委員会へ届けました。内5,000円を日本赤十字社に募金し、残金108,651円を幸田町と災害時相互応援協定を結ぶ石川県内灘町に送り、教育委員会を通して小中学生のための支援に役立てていただく予定です。ご協力ありがとうございました。

隙を見せるな！

タイトルの言葉は、私の座右の銘です。大学時代の野球部でこの言葉に出会いました。外野を守っていた私は、飛んできた打球を後ろに逸らしてしまい、チームはサヨナラ負けをしてしまいました。その際に監督から、「守っている姿が隙だらけだった。隙を見せるな！」と叱責されました。自分では集中しているつもりでも、周りから見ると集中しておらず、いい加減な様子だったのだと思います。それ以来、さまざまな場面で、いい加減なことをしていると、悪い結果として自分に跳ね返ってくるという意味で、授業や部活動など事あるごとに生徒たちに伝えています。

2年生のとき、三年ぶりにスキー学習会を行うことができました。振り返ってみると、生徒たちは普段の学校で見せる姿とは違った一面をお互いに見ることができたり、仲間の優しさ、親のありがたさを強く感じたりした充実した三日間でした。また、生徒たちの隙のない生活によって、スキー場での自由時間を特別に設けることができました。生徒たちが隙を見せなければ、良い結果につながる体験をした瞬間でした。

最上級生「幸田中の顔」となった生徒たちは、スキー学習会の経験を生かし、隙を見せない生活を送り続けました。特にその成果が現れた取り組みは、2年生の終わりから歌い続けた学年合唱「言葉にすれば」です。

昨年度の3年生を送る会で披露した「言葉にすれば」をさらにレベルアップさせるべく、修学旅行で作曲者である松下耕先生から直接ご指導を頂きました。短い時間ではありましたが、真剣な眼差しで指導を受ける生徒たちから隙はまったく感じられませんでした。そのような生徒たちが披露した「言葉にすれば」だからこそ、合唱コンクールでは聴いてくださった人たちの心を動かすことができたのだと思います。

3年生はあと1か月ほどで義務教育を終えます。卒業した後は、新しいそれぞれの道へと歩み出していきます。隙のない充実した日々を過ごすことによって、大切なものを手に入れることができたり、人の心を動かすことができたりすることにつながります。これからも「隙を見せない」人であり続けてくれることを願っています。



松下耕先生の合唱指導